

各 位

三重県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予報第 7 号

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 気象のデータ	9
6. おしらせ	11

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネ(注 1)では、イネミズゾウムシの発生量は**少**と予想されます。

コムギ(注 2)では、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。気象条件に注意し、開花の状況を確認して防除に努めてください。

注 1:4 月中旬までに移植する圃場を対象。

注 2:11 月下旬までに播種した圃場を対象。

2) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は**やや多**と予想されます。マシン油乳剤を散布していない圃場や現在発生が認められる圃場では、今後の増加に注意してください。そうか病、かいよう病(温州、中晩柑)の発生量は**平年並**と予想されま

す。
ナシでは、黒星病及び赤星病の発生量は**平年並**と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**平年並**と予想されます。チャノホソガの発生時期は**やや遅**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、灰色かび病の発生量は**やや多**と予想されます。病勢が進行すると防除が困難になります。圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。うどんこ病の発生量は**やや少**と予想されます。ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。

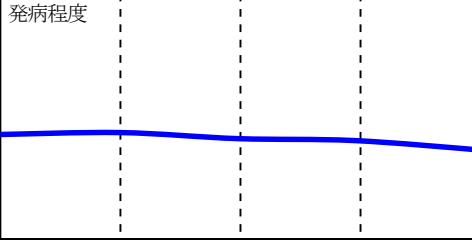
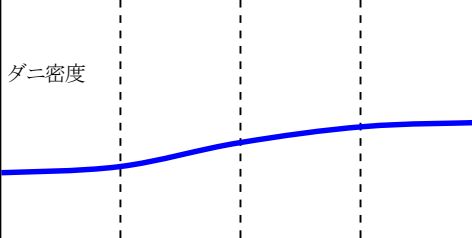
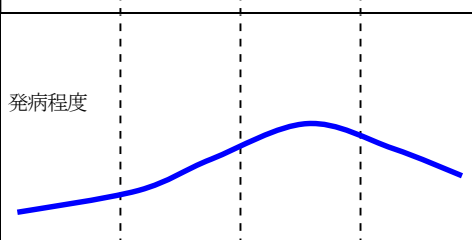
キャベツでは、菌核病の発生量は**やや少**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
						3月		4月				
						下旬	下旬	中旬	下旬			
カンキツ	イネ	イネミズゾウムシ	—	少	小	低				成虫誘殺数	<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。 	
	コムギ	赤かび病	早	平年並	小	普通		出穂期	開花期	感染	発病	<ul style="list-style-type: none"> 1) 圃場をよく観察して、開花始めから開花盛期に薬剤を散布してください。 2) 複数回防除を基本とし、二回目防除は一回目防除の7~10日後に行ってください。
		そうか病	—	平年並	小	普通		葉枝の発病	発芽			<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年に果実での発病がみられた圃場では、発芽期防除を実施してください。 2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場外に持ち出し適切に処分してください。
		かいよう病	—	温州平年並 中晩柑平年並	温州小 中晩柑小	温州低 中晩柑普通					発病程度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑が認められる中晩柑圃場では、発芽前防除を実施してください。 2) 夏秋梢等の発病枝葉は早く剪除し、圃場外に持ち出し適切に処分してください。 3) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布による薬害に注意してください。
		ミカンハダニ	—	やや多	中	普通					成ダニ密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当たり1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場や現在発生が認められる圃場では、今後の増加に注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通					1) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。なお、発病したりん片は、基部から切除して圃場外で処分してください。 2) 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。
	赤星病	—	平年並	小	普通					1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通					1) 例年、2月下旬～3月上旬に産卵を確認しますが、本年は、3月6日に産卵を確認しています。 2) 裾葉裏に生息しているので、薬剤が付着するよう丁寧に散布してください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤使用は年1回としてください。
	チャノホソガ	やや遅	—	—	—					1) 新芽の葉裏に産卵します。 2) 萌芽は例年4月上旬です。萌芽後は新芽への産卵や幼虫発生に注意してください。
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	中	普通					1) 病勢が進行すると防除が困難になります。圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。 2) 20℃前後の温度と多湿条件で発生が多くなります。ハウス内の温度・湿度管理に注意してください。 3) 発病部位は伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し適切に処分してください。 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	小	普通	 発病程度	<ol style="list-style-type: none"> 1) 軟弱徒長すると発生が多くなります。適切な温湿度管理、灌水管理に努めてください。 2) 発病部位は伝染源となるため、見つけ次第速やかに取り除いてください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。 			
	ハダニ類	—	平年並	中	普通	 ダニ密度	<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬液がかかりやすくなるよう下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 2) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。また、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用してください。 3) 薬剤散布では、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して薬剤の選択を行ってください。 			
キャベツ	菌核病	—	やや少	小	普通	 発病程度	<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病株は伝染源となるため、菌核が形成される前に抜き取って圃場外に持ち出し適切に処分してください。 2) 葉の傷口や生育の衰えた下葉から病原菌が感染し、結球期頃から発生が目立ち始めます。結球始期の予防散布を基本としてください。 3) 薬剤散布は、初発部位である株元を中心に丁寧に行ってください。 			

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	—	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い予想(±) 2) 予察灯(令和5年7月第1半旬～9月第2半旬 松阪市水田位置)では、誘殺数は34頭(平年123頭)と少(－) 3) 巡回調査圃場(令和5年8月)では、発生圃場率4.2%(平年6.9%)と少、払い落とし虫数0.07頭(平年0.11頭)と少(－) <p>考察： 昨年の予察灯の誘殺数を重視して、越冬虫数、予想発生量ともに少と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	早	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予想(±) 2) 農業研究所作況試験田(11月13日播種・あやひかり)によると、葉齢の進展は3月18日時点で早(－) 3) 伊勢平坦部の11月上旬播種「あやひかり」の出穂は3月末から始まると予想されます。(出穂時期－) <p>考察： 現在の生育状況および今後の気象条件から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い予想(+) 2) 県予察圃(御浜町、興津早生、無防除)では、昨年7月上旬の春葉発病率100%(平年86.4%)と多(+) 3) 一般圃場では、昨年8月の発生量はやや多(+) 4) 巡回調査圃場(3月第1～2週)では、旧葉での発病葉率0%(平年0.03%)と平年並に少、発病度0(平年0.006)と平年並に少(±) <p>考察： 現状の発生量は平年並と考えられ、予想発生量も引き続き平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い予想(+) 2) 巡回調査圃場(3月第1～2週)では、温州みかん旧葉での発病葉率0.29%(平年0.14%)とやや多の傾向、発病度0.06(平年0.05)と平年並(±)、中晩柑類旧葉での発病葉率8.7%(平年5.1%)と多、発病度4.7(平年2.3)と多(+) 3) 一般圃場では、発生量はやや少(－) <p>考察： 温州みかんでは、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、現状の発生量は平年並と考えられ、予想発生量も引き続き平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並が多い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(御浜町、3月上旬、興津早生)では、寄生頭数は無防除区 2.2 頭/葉(平年 15.3 頭/葉)とやや少の傾向、慣行防除区 0.0 頭/葉(平年 2.0 頭/葉)と少(—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、寄生頭数 0.09 頭/葉(平年 0.28 頭/葉)と平年並の傾向、寄生葉率 2.3%(平年 3.3%)とやや少の傾向(—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多(+)</p> <p>考察: 現状の発生量は一般圃場の結果を重視してやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多とされます。</p>
ナシ	黒星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並が多い予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場では、昨年9月の発病葉率 0.1%(平年 0.4%)とやや少の傾向(—)</p> <p>3) 一般圃場では、昨年10月の発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 昨年秋の発生量は平年並であり、引き続き予想発生量は平年並とされます。</p>
	赤星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並が多い予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場では、昨年6月の発病葉率 0.6%(平年 0.4%)とやや多(+)</p> <p>3) 一般圃場では昨年5月の発生量はやや少(—)</p> <p>考察: 予想発生量は平年並とされます。</p>
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並が多い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(3月中旬)では、産卵確認は3月6日(8年平均2月29日)とやや遅、寄生葉率 1.0%(平年 9.5%)と少、寄生虫数 0.01 頭/葉(平年 0.56 頭/葉)と少(—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、発生圃場率 61.1%(平年 48.5%)と平年並の傾向、寄生葉率 2.0%(平年 3.0%)と平年並の傾向、寄生虫数 0.07 頭/葉(平年 0.10 頭/葉)とやや少(±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は一般圃場を重視して平年並と考えられ、予想発生量は引き続き平年並とされます。</p>
	チャノホソガ	やや遅	—	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップでは、初飛来は3月14日現在未確認(平年の初飛来は3月8日)とやや遅(発生時期+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、成虫は未確認(発生時期±)</p> <p>考察: 県予察圃、巡回調査の結果から、予想発生時期はやや遅とされます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、発病株率0%(平年1.5%)とやや少の傾向、発病果率1.8%(平年0.7%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、今後の気象条件を考慮して引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	うどんこ病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、発病果率0.2%(平年0.03%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は巡回調査の結果と一般圃場の状況からやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、寄生株率0.4%(平年9.4%)と少、発生程度0.2(平年4.7)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 一般圃場での状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1~2週)では、発病株率5.0%(平年0.9%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は一般圃場での状況を重視して少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

		平年値 ↓					
度数		10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価		少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

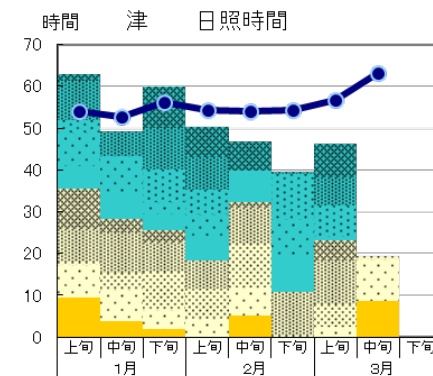
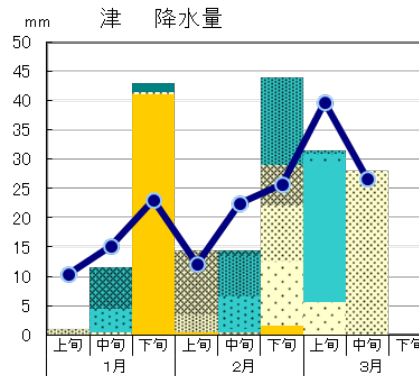
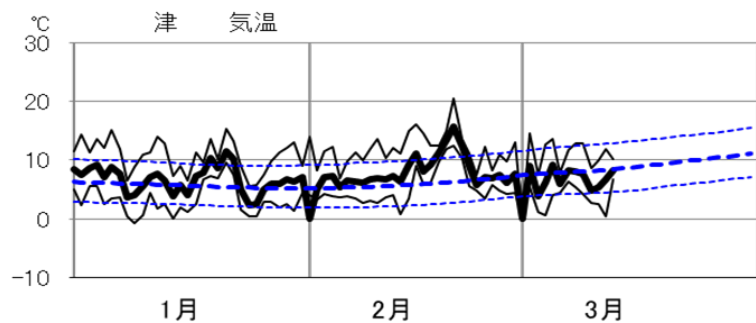
東海地方 1 か月予報 (令和 6 年 3 月 14 日 名古屋地方気象台発表)

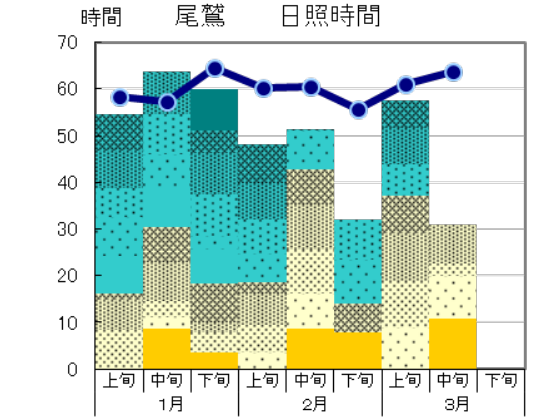
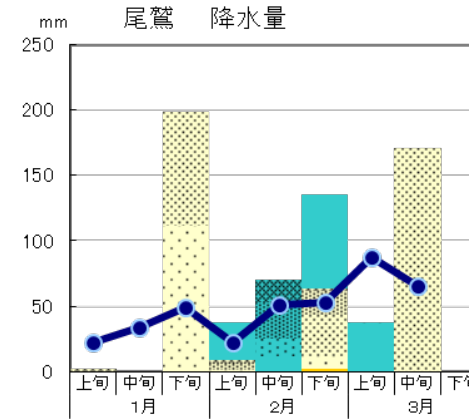
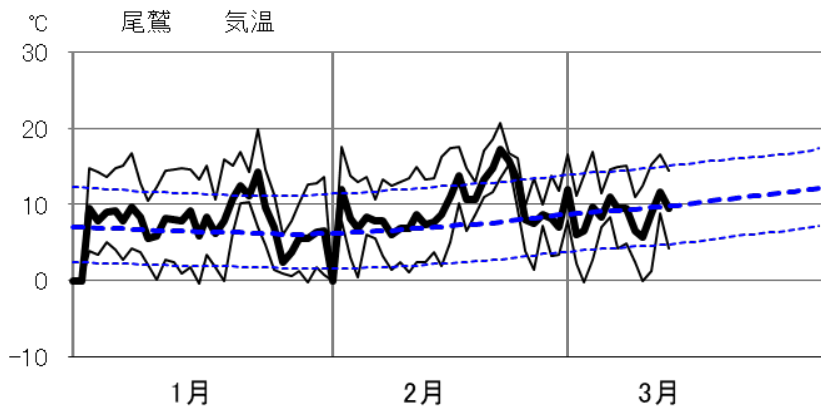
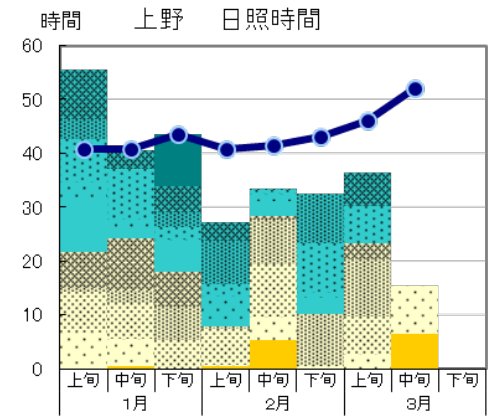
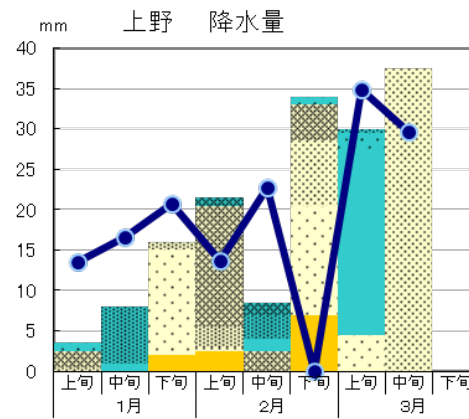
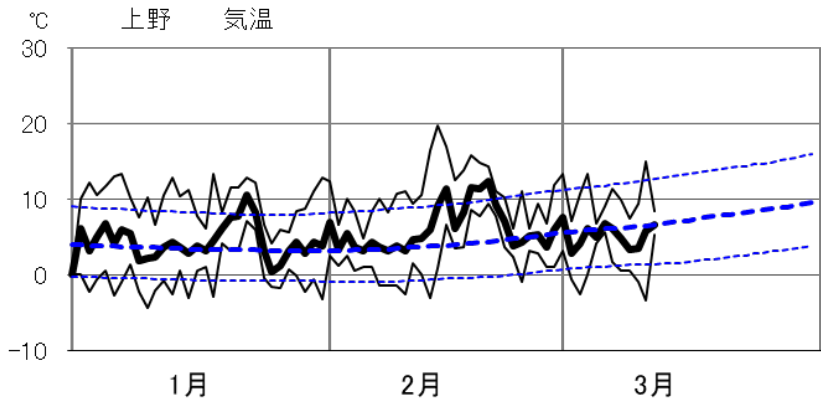
向こう1か月の気温はほぼ平年並ですが、期間のはじめは寒気の影響を受けやすいため平年並か低く、その後は寒気の影響を受けにくいいため平年並か高いでしょう。

低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

1 週目 3 月 16 日 ～22 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
2 週目 3 月 23 日 ～29 日	低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
3～4 週目 3 月 30 日 4 月 12 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3 月 14 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の日程で発表しています。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 第1回 4月27日(木)(済み) | 第2回 5月25日(木)(済み) |
| 第3回 6月22日(木)(済み) | 第4回 7月27日(木)(済み) |
| 第5回 8月24日(木)(済み) | 第6回 10月26日(木)(済み) |
| 第7回 3月21日(木) (今回) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。

下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000835764.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/mie>

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>